

# 令和2年度 事業報告書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

学校法人 山村学園

**1. 法人の概要**

**2. 財務の概要**

**3. 山村学園短期大学**

# 1. 法人の概要

## (1) 基本情報

学校法人 山村学園 (法人本部)  
埼玉県川越市田町 16 番地 2

## (2) 建学の精神 (校訓)、教育目標

「質実」 素直な気持ちを持ち、感謝の気持ちを持って働く人間を育成する。

「英知」 高い知性と優れた創造力を発揮できる人間を育成する。

「愛敬」 人を慈しみ、尊敬する心を持った人間を育成する。

(教育目標)

「地域社会に貢献できる、心豊かで有為な人材の育成」

## (3) 学校法人の沿革

昭和26年3月1日	学校法人山村学園として設置認可
昭和26年4月1日	入間郡坂戸町に山村女子高等学校を開校 家庭科を設置
昭和33年4月1日	山村女子高等学校に商業科を設置
昭和34年7月1日	川越市にあらたに山村女子高等学校設置認可
昭和34年11月3日	坂戸町の既設の山村女子高等学校を山村第二女子高等学校と校名改称、同校商業科は川越市の山村女子高等学校に移設
昭和35年4月1日	山村女子高等学校開校
昭和43年4月1日	山村女子高等学校に普通科を設置
昭和44年4月1日	山村第二女子高等学校家庭科を服飾デザイン科に改称
昭和52年1月5日	山村第二女子高等学校に普通科設置認可
昭和52年4月1日	山村第二女子高等学校に普通科を設置
昭和63年12月22日	山村女子短期大学設置認可
平成元年4月1日	山村女子短期大学開学(国際文化科)
平成3年4月1日	山村第二女子高等学校を山村国際女子高等学校に校名改称
平成11年4月1日	山村国際女子高等学校を山村国際高等学校に校名改称(男女共学化)
平成13年8月1日	山村女子短期大学(国際文化科)の改組転換によりコミュニケーション学科設置
平成13年12月20日	山村女子短期大学に保育学科設置認可
平成13年3月31日	山村国際高等学校服飾デザイン科を廃止
平成14年4月1日	山村女子短期大学を山村学園短期大学に校名改称、並びに保育学科新設(男女共学化)
平成17年3月31日	山村女子高等学校商業科を廃止
平成17年3月31日	山村学園短期大学国際文化科を廃止
平成20年4月1日	山村女子高等学校を山村学園高等学校に校名改称(男女共学化)
平成24年4月1日	山村学園短期大学コミュニケーション学科をキャリア コミュニケーション学科に名称変更
平成27年3月31日	山村学園短期大学キャリア コミュニケーション学科を廃止
平成31年4月1日	山村学園短期大学保育学科を子ども学科に名称変更

(4) 設置する学校・学部・学科等・所在地

山村学園短期大学	子ども学科	埼玉県比企郡鳩山町石坂字大平 604
山村学園高等学校	全日制課程 (普通科)	埼玉県川越市田町 16-2
山村国際高等学校	全日制課程 (普通科)	埼玉県坂戸市千代田 1-2-23

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和3年5月1日現在)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
山村学園短期大学	子ども学科	100	65	200	137
山村学園高等学校	普通科	400	400	1,200	1,181
山村国際高等学校	普通科	240	245	720	810

(6) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
山村学園短期大学	0.77	0.70	0.71	0.71	0.69
山村学園高等学校	1.11	1.18	1.27	1.11	0.98
山村国際高等学校	1.21	1.35	1.40	1.30	1.13

(7) 役員の概要

(令和3年5月1日現在)

<理事定数：7人 現員：7人、監事定数2人 現員2人>

	職名	氏名	常勤・非常勤の別	選任区分	選任条項	任期	現職等
役員	理事	おか 岡 みのる 實	非常勤	理事長	第5条第2項	H20.4.1 ~ 2008.4.1 ~	
				理事会選任	第6条第1項第3号	R2.6.16 ~ R7.6.15 2020.6.16 ~ 2025.6.15	
	〃	の ぐち かず お 野 口 一 夫	常勤	学長	第6条第1項第1号	H24.4.1 ~ 2012.4.1 ~	山村学園短期大学 学長
	〃	ひら の まさ み 平 野 正 美	常勤	校長	第6条第1項第1号	H30.4.1 ~ 2018.4.1 ~	山村学園高等学校 校長
	〃	なか やま たつ ろう 中 山 達 朗	常勤	評議員会選任	第6条第1項第2号	H31.4.1 ~ R6.1.9 2019.4.1 ~ 2024.1.9	山村国際高等学校 校長
	〃	やま むら ひろし 山 村 寛	非常勤	評議員会選任	第6条第1項第2号	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	
	〃	やま ぐち いち ろう 山 口 一 郎	非常勤	理事会選任	第6条第1項第3号	R3.4.1 ~ R8.3.31 2021.4.1 ~ 2026.3.31	※学外者
	〃	ふじ の せい た 藤 野 清 太	非常勤	理事会選任	第6条第1項第3号	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	※学外者
	〃	こはやし まつたろう 小 林 松 太 郎	非常勤	理事長選任	第7条第1項	R2.6.16 ~ R7.6.15 2020.6.16 ~ 2025.6.15	
〃	い とう つかさ 伊 藤 司	非常勤	理事長選任	第7条第1項	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	司法書士	

(8) 評議員の概要

(令和3年5月1日現在)

<評議員定数：15人 現員15人>

評 議 員	氏名	選任区分	選任条項	任期	現職等
	のぐち かずお 野口一夫	学長	第22条第1項第1号	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	山村学園短期大学 学長
	ひらの まさみ 平野正美	校長	第22条第1項第1号	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	山村学園高等学校 校長
	なか やま たつろう 中山達朗	法人の職員	第22条第1項第2号	H31.4.1 ~ R6.1.9 2019.4.1 ~ 2024.1.9	山村国際高等学校 校長
	やまむら まさこ 山村昌子	法人の職員	第22条第1項第2号	R2.4.1 ~ R6.1.9 2020.4.1 ~ 2024.1.9	山村学園短期大学 事務局次長
	ごとう りゅうじろう 後藤隆二郎	法人の職員	第22条第1項第2号	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	山村学園高等学校 教頭
	とみなが かずお 富永一男	法人の職員	第22条第1項第2号	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	山村国際高等学校 教頭
	おかのみろ 岡実	理事の互選	第22条第1項第3号	R2.6.16 ~ R7.6.15 2020.6.16 ~ 2025.6.15	
	やまぐち いちろう 山口一郎	理事の互選	第22条第1項第3号	R3.4.1 ~ R8.3.31 2021.4.1 ~ 2026.3.31	
	さか た まさえ 坂田正枝	卒業生	第22条第1項第4号	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	
	のじま やすこ 野島康子	卒業生	第22条第1項第4号	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	
	とよ いずみ きよこ 豊泉清子	卒業生	第22条第1項第4号	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	
	はぎ わらもと お 萩原基雄	卒業生	第22条第1項第4号	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	あたご保育園 園長
	やまむら ひろし 山村寛	学識経験者	第22条第1項第5号	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	
	たかはし けいこ 高橋恵子	学識経験者	第22条第1項第5号	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	聖心女子大学 名誉教授
たなか ひさこ 田中久子	学識経験者	第22条第1項第5号	H31.4.1 ~ R6.3.31 2019.4.1 ~ 2024.3.31		

(9) 教職員の概要

教職員の本務・兼務別の人数

(令和3年5月1日現在)

区分	教員		職員		合計
	本務	兼務	本務	兼務	
法人本部	0	0	4	1	5
山村学園短期大学	11	17	5	7	40
山村学園高等学校	76	35	9	5	125
山村国際高等学校	56	27	6	4	93
計	143	79	24	17	263

## 2. 財務の概要

### (1) 決算の概要

#### ①貸借対照表関係

##### 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
固定資産	6,357,210	6,367,144	6,458,037	6,471,117	6,515,415
有形固定資産	5,739,625	5,575,401	5,581,949	5,697,175	5,614,369
特定資産	456,821	631,821	716,821	631,821	761,821
その他の固定資産	160,765	159,923	159,268	142,121	139,225
流動資産	907,702	890,523	938,043	895,342	836,578
資産の部 合計	7,264,912	7,257,666	7,396,080	7,366,459	7,351,994
固定負債	1,301,015	1,197,056	1,202,163	1,134,341	1,017,396
流動負債	591,664	606,702	595,427	540,050	500,076
負債の部 合計	1,892,679	1,803,758	1,797,590	1,674,391	1,517,472
基本金	9,099,937	8,847,795	9,033,731	9,405,640	9,637,810
繰越収支差額	△ 3,727,704	△ 3,393,886	△ 3,435,241	△ 3,713,572	△ 3,803,288
純資産の部 合計	5,372,233	5,453,908	5,598,490	5,692,068	5,834,522
負債及び純資産の部 合計	7,264,912	7,257,666	7,396,080	7,366,459	7,351,994

#### ②資金収支計算書関係

##### ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収入の部	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
学生生徒等納付金収入	1,215,804	1,231,240	1,315,107	1,346,698	1,235,945
手数料収入	78,523	84,631	77,148	59,491	62,413
寄付金収入	17,233	21,709	19,432	42,360	23,655
補助金収入	910,844	927,405	904,540	889,709	946,544
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	43,585	33,227	32,555	35,251	36,044
受取利息・配当金収入	5	8	3	5	1
雑収入	124,126	120,702	146,659	142,421	82,615
借入金等収入	65,000	0	132,000	60,000	0
前受金収入	311,386	315,433	278,320	215,515	232,439
その他の収入	725,394	732,614	795,183	1,024,153	980,930
資金収入調整勘定	△ 421,872	△ 416,007	△ 451,070	△ 401,538	△ 306,966
前年度繰越支払資金	743,910	793,886	781,585	799,852	771,660
収入の部合計	3,813,938	3,844,848	4,031,461	4,213,917	4,065,279

(単位：千円)

支出の部	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
人件費支出	1,512,443	1,525,907	1,568,587	1,630,322	1,537,324
教育研究経費支出	354,812	421,201	392,622	412,951	332,520
管理経費支出	164,499	158,339	152,011	150,391	142,576
借入金等利息支出	5,068	7,285	7,213	7,996	7,056
借入金等返済支出	125,324	120,008	114,710	134,434	113,948
施設関係支出	122,061	10,743	201,996	273,217	40,030
設備関係支出	31,915	44,642	32,072	47,435	103,157
資産運用支出	125,000	175,000	85,000	65,000	140,000
その他の支出	702,670	756,820	831,293	867,006	971,683
資金支出調整勘定	△ 123,739	△ 156,683	△ 153,894	△ 146,496	△ 67,843
翌年度繰越支払資金	793,886	781,585	799,852	771,660	744,827
支出の部合計	3,813,938	3,844,848	4,031,461	4,213,917	4,065,279

## イ)活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入 計	2,378,860	2,404,537	2,476,929	2,480,220	2,339,381
教育活動資金支出 計	2,031,753	2,105,357	2,113,220	2,193,662	2,012,374
差引	347,107	299,181	363,709	286,558	327,007
調整勘定等	△ 3,299	46,492	△ 65,651	△ 63,025	3,807
教育活動資金収支差額	343,808	345,672	298,058	223,533	330,814
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入 計	11,255	14,377	18,511	185,710	57,832
施設整備等活動資金支出 計	278,975	230,385	319,067	385,652	253,187
差引	△ 267,720	△ 216,009	△ 300,556	△ 199,942	△ 195,354
調整勘定等	48,067	△ 3,069	△ 5,406	4,856	△ 33,799
施設整備等活動資金収支差額	△ 219,653	△ 219,078	△ 305,962	△ 195,086	△ 229,153
小計(教育活動資金収支差額 +施設整備等活動資金収支差額)	124,155	126,595	△ 7,904	28,447	101,661
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入 計	826,148	621,490	822,565	798,522	847,715
その他の活動資金支出 計	900,328	760,386	796,393	855,161	976,208
差引	△ 74,180	△ 138,896	26,172	△ 56,639	△ 128,493
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	△ 74,180	△ 138,896	26,172	△ 56,639	△ 128,493
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	49,975	△ 12,301	18,268	△ 28,192	△ 26,833
前年度繰越支払資金	743,910	793,886	781,585	799,852	771,660
翌年度繰越支払資金	793,886	781,585	799,852	771,660	744,827

③事業活動収支計算書関係

事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	1,215,804	1,231,240	1,315,107	1,346,698	1,235,945
	手数料	78,523	84,631	77,148	59,491	62,413
	寄付金	7,055	9,957	8,952	9,925	10,560
	経常費等補助金	910,389	924,780	896,509	886,534	912,745
	付随事業収入	43,585	33,227	32,555	35,251	36,044
	雑収入	124,989	120,702	146,659	142,421	82,612
	教育活動収入 計	2,380,345	2,404,537	2,476,929	2,480,320	2,340,319
	事業活動支出の部					
	人件費	1,512,443	1,529,956	1,570,830	1,628,448	1,533,727
	教育研究経費	525,012	592,756	561,691	588,091	513,180
	管理経費	209,942	205,477	197,327	197,931	191,691
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出 計	2,247,397	2,328,190	2,329,848	2,414,470	2,238,598
教育活動収支差額	132,949	76,348	147,081	65,850	101,721	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	5	8	3	5	1
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入 計	5	8	3	5	1
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	5,068	7,285	7,213	7,996	7,056
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出 計	5,068	7,285	7,213	7,996	7,056
教育活動外収支差額	△ 5,064	△ 7,277	△ 7,209	△ 7,991	△ 7,055	
経常収支差額	127,885	69,070	139,872	57,859	94,666	
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	11,255	14,377	19,041	35,721	47,835
	特別収入 計	11,255	14,377	19,041	35,721	47,835
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	0	1,681	14,332	0	0
	その他の特別支出	0	91	0	2	47
	特別支出 計	0	1,772	14,332	2	47
特別収支差額	11,255	12,605	4,710	35,719	47,788	
基本金組入前当年度収支差額	139,140	81,675	144,582	93,578	142,454	
基本金組入額合計	△ 140,989	△ 67,709	△ 185,936	△ 373,481	△ 232,170	
当年度収支差額	△ 1,849	13,966	△ 41,355	△ 279,904	△ 89,716	
前年度繰越収支差額	△ 3,745,210	△ 3,727,704	△ 3,393,886	△ 3,435,241	△ 3,713,572	
基本金取崩額	19,355	319,852	0	1,573	0	
翌年度繰越収支差額	△ 3,727,704	△ 3,393,886	△ 3,435,241	△ 3,713,572	△ 3,803,288	
(参考)						
事業活動収入 計	2,391,605	2,418,922	2,495,974	2,516,046	2,388,155	
事業活動支出 計	2,252,465	2,337,247	2,351,392	2,422,469	2,245,701	



### 3. 山村学園短期大学

- 1 概要
- 2 建学の精神、教育目標、三つのポリシー
- 3 18歳人口
- 4 学生募集
- 5 在籍者・退学者
- 6 求人・就職
- 7 本学への評価
- 8 財務状況
- 9 行政の施策
- 10 令和2年度事業計画達成度一覧

## I. 現状

### 1. 概要

令和3年度入試において入学予定者が67名となった。昨年度の74名を下回り、目標としていた80名を達成することはできず、財務状況はさらに厳しくなった。

教育面では、満足度調査、授業評価、就職先からの評価などは、一定レベル以上であり、引き続き充実が図られている。

令和2年度においても、私立大学等改革総合支援事業補助金制度、高等教育無償化、幼児教育の無償化への対応に重点的に取り組み、私立大学等改革総合支援事業補助金ではタイプ3において約600万円の補助金を獲得することができたが、前年度獲得できたタイプ1については獲得できなかった。学習成果や三つのポリシーの見直しについては、例年通り点検を進めることができた。

就職に関しては、保育者のニーズが高く、依然高い就職率を維持している。この傾向は向後数年間は続くと思われる。

コロナ禍の影響で、例年であれば実施している行事が縮小または中止され、授業についても一部オンラインで実施、実習についても一部縮小となったため、教育活動への影響は避けられない一年だった。

### 2. 建学の精神、教育目標、三つのポリシー

#### (1)建学の精神、教育目標

**山村学園短期大学 教育方針**

○校訓（建学の精神の現れをくむシンボリックなもの）

- 「實実」 素直な気持ちを持ち、謙遜の気持ちを持って働く人間を育成する。
- 「英知」 高い知性と優れた創造力を発揮できる人間を育成する。
- 「崇敬」 人を基しみ、尊敬する心を持った人間を育成する。

○専攻行為

「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、社会の発展に有為な人材を育成することを目的とする。」

○短大前期1 第23項

「本学は、学校教育法に基づき、現代社会に対応し、人間に対する深い理解と愛情を備えた心豊かな人材を育成し、もって広く社会の発展に寄与することを目的とする。」

○短大前期1 第33項

「保育学科においては、高い保育の専門性と豊かな人間性を兼ね備え、地域社会に貢献できる骨太な幼稚園教諭・保育士の養成と、その基礎となる教育研究の推進を目的とする。」

## **(2) 山村学園短期大学子ども学科 3つのポリシー**

### **①ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）**

子ども学科では、建学の精神（質実・英知・愛敬）、学則にある短期大学及び子ども学科の目的に則り、学則第43条（卒業）に示す所定の教育課程を修め、66単位以上を累積GPA一定以上の成績で修得し、以下のような知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を備えた者に対し、その卒業を認定し短期大学士の学位を授与します。

#### **（知識・技能）**

- ・ 保育者としての専門的知識・技能
- ・ 社会人として必要な教養・知識

#### **（思考力・判断力・表現力）**

・ 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、職業や社会における諸問題を自ら発見、分析、解決方法について考察する力、さらに自分の考えを他者に口頭、文章、あるいは身体をもつて的確に表現する力

#### **（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）**

- ・ 保育への情熱と使命感を持って社会に貢献しようとする積極的な態度
- ・ 人や自然を深く愛し、慈しむ態度
- ・ 社会人として必要なマナー・常識・態度

### **②カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）**

子ども学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に示した資質・能力・態度を総合的に備えた学生を育成するために、以下のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に基づいて教育課程を編成するとともに、学生の学修学習過程や学修方法が明示された教育内容、教育方法をもって授業を実施し教育評価を行います。

#### **（教育内容）**

- ・ 保育者としての専門的知識・技能をはじめとして、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を育むため、教養科目及び専門科目を科目内容の分野や関連性から記号・番号をつけ、体系的、系統的をふまえて配置し、学生が学びの全体像や科目間の関連を容易に理解できるようにカリキュラムツリーを作成します。
- ・ 保育者としての使命感や態度、社会貢献への積極的な姿勢、人や自然を深く愛し、慈しむ態度等を涵養するため、学内外の自然・社会環境を利用した体験型の学習を取り入れた科目を配置します。
- ・ 1年次には、建学の精神を理解し、大学における学びへの適応を速やかにするとともに、社会性や学ぶ力の基礎を育むため「基礎演習」・「キャリアアップ・セミナーⅠ」を、2年次

には主体性、協働性、対話性、人間力を高めるため「総合演習」「キャリアアップ・セミナーⅡ」をそれぞれ配置します。

・保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状の取得に関する科目による幼稚園教諭・保育士養成課程を編成するとともに、その他保育者として資質向上に資する資格が取得できる科目を配置します。

#### **(教育方法)**

・シラバスには、各授業科目の到達目標や毎回の授業の予習・復習内容などを具体的に示すことで、学生の主体的で効果的な学習を支援します。

・授業科目の内容に応じて、アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、ゼミナール形態等を取り入れ、学生自身の問題発見、資料収集と分析、解決方法の検討、討議・発表の機会を多く提供することに努めます。

・保育の内容や保育技術、実習準備に関する科目については、少人数編成で効果的に学習できる授業展開とします。

・免許・資格取得のための現場実習や現場体験の学習を段階的に行い、これらを通じて保育者としての資質・能力・態度の修得に資するようにします。

#### **(評価)**

・単位認定にあたっては、シラバスに開示する成績評価と基準によって厳格な成績評価を行うとともに、半期ごとに GPA によって学修成果の達成状況を評価し、一定の GPA をクリアするよう学修支援・指導を行います。また、学生は学年ごとに自身の学習ポートフォリオを作成し、自らの学びの成果を自己点検・自己評価することができます。

・授業アンケートを半期ごとに実施し、個々の授業内容や方法の改善やカリキュラム編成の改善を検討します。

### **③アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)**

子ども学科では、建学の精神（「質実」、「英知」、「愛敬」）を理解するとともに、現代社会に対応し、人間に対する深い理解と愛情を備えた心豊かで広く社会の発展に寄与できる人材の育成方針に共感する、次のような者の入学を期待しています。

#### **(知識・技能)**

- ・幼児教育・保育の学習に必要な十分な基礎学力を備えている。
- ・音楽、造形、言語・身体などの表現技術などに親しんでいる、あるいはこれらを今後学ぶにふさわしい豊かな感性をもっている。
- ・社会人として必要な教養・知識を身につけようとする姿勢をもっている。

#### **(思考力・判断力・表現力)**

・学びの基礎となる読む、書く、聞く、話す能力や自ら課題を発見し、考え、判断し、行動できる力を高めようとする姿勢をもっている。

#### **(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)**

- ・幼児教育・保育に情熱と使命感をもって取り組むことができる。

- ・人や動植物、自然に対する深い愛情を持っている。
- ・笑顔、挨拶、言葉づかいなど基本的な対人関係能力を備えている。

### 3. 18歳人口



令和2年と令和3年を比較すると1.2%の減少。令和3年度と令和12年度では、15%の減少となる。ただし、この図は人口流入の予測値は反映されておらず、単純に年齢別の人口を拾った数値である。

### 4. 学生募集

入学者数推移（人）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人数	71	70	74	67

左の表は、過去3年間の保育学科合格者数を示したものである。

	h27	h28	h29	H30	R1	R2	R3	合計	平均
川越市	10	10	10	6	9	8	10	63	9.0
東松山	12	6	10	5	8	9	5	55	7.9
坂戸	6	10	5	9	5	6	6	47	6.7
鶴ヶ島	3	6	3	5	4	3	2	26	3.7
寄居町	2	2	5	3	5	3	4	24	3.4
毛呂山	4	3	2	5	2	3	4	23	3.3
小川町	6	5	3	0	2	3	4	23	3.3
日高市	6	1	1	1	5	1	2	17	2.4
ふじみ野市	4	3	4	4	0	0	1	16	2.3
秩父市	7	2	2	0	1	1	2	15	2.1
吉見町	2	3	2	3	2	0	0	12	1.7
富士見市	0	5	0	2	1	4	0	12	1.7
鳩山町	1	3	3	1	0	3	1	12	1.7
川島	3	3	1	2	1	1	0	11	1.6
嵐山	0	1	2	2	3	1	2	11	1.6
熊谷	2	0	1	1	0	3	4	11	1.6
秩父郡	1	0	3	0	1	3	1	9	1.3
越生	2	1	0	0	2	1	2	8	1.1
所沢市	0	1	1	1	2	2	1	8	1.1
滑川	2	1	1	0	1	1	2	8	1.1
深谷	2	2	1	1	0	0	0	6	0.9
狭山市	0	2	1	0	1	2	0	6	0.9
入間市	2	0	0	0	1	2	0	5	0.7
飯能市	1	1	0	1	0	0	2	5	0.7
ときがわ	0	0	1	1	0	1	2	5	0.7
上尾市	2	0	2	0	0	0	0	4	0.6
さいたま市	1	1	0	0	0	1	0	3	0.4
鴻巣市	0	2	0	0	0	0	1	3	0.4
行田市	0	0	1	1	0	0	0	2	0.3
桶川市	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1
北本市	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	81	74	65	54	56	62	59		

左表は、過去7年間の主な市町村別入学者人数（職訓生除く）東松山、川越、坂戸、鶴ヶ島などが多い。鳩山はベスト10圏外となっている。令和3年度入試では、前年と同様の傾向が見られたものの、3名減の59名となった。

主な高校からの入学者数						
高校名	H28	H29	H30	令和元	令和2	令和3
山村国際高校	12	10	8	6	10	8
川越西高校	6	3	4	6	5	6
小川高校	6	4	5	5	5	5
県立越生	0	2	0	5	1	2
松山女子高校	1	1	5	3	3	1
武蔵越生	0	3	4	3	1	0
寄居城北	1	3	2	3	4	2
新座柳瀬	0	1	2	3	0	0
鴻巣女子高校	2	6	0	3	2	0
筑波大学付属坂戸高校	1	0	2	2	1	1
埼玉平成高校	1	2	1	2	1	0
川越初雁高校	0	1	1	2	1	0
狭山清陵高校	0	0	1	2	1	2
滑川総合高校	5	5	4	1	3	6
秋草学園高校	2	2	3	1	0	1
鳩山高校	3	3	1	1	2	1
富士見高校	1	2	1	1	1	0
飯能南	0	0	1	1	1	1
飯能高校	0	0	0	1	1	1
朝霞西	1	0	0	1	0	0
東京成徳大学深谷高校	3	1	3	0	2	1
鶴ヶ島清風高校	2	3	2	0	1	5
川越総合高校	1	0	2	0	2	1
山村学園高校	2	3	1	0	3	0
坂戸西高校	8	2	1	0	2	0
志木高校	5	2	1	0	1	0
豊岡	0	0	1	0	0	0
ふじみ野	0	0	1	0	0	0
市立川越	0	0	1	0	0	0
伊奈総合学園高校	0	1	0	0	0	0
誠和福祉高校	0	1	0	0	0	0
日高高校	1	0	0	0	0	0
本庄第一	1	0	0	0	0	1
正智深谷高校	0	0	0	0	0	1
大宮武蔵野高校	0	0	0	0	0	0
朝霞高校	0	0	0	0	1	0
西武台	0	0	0	0	0	0
深谷商業高校	0	0	0	0	0	0
狭山経済	0	0	0	0	0	0
秩父農工科学	1	2	0	0	0	1
川越南	0	1	0	0	0	1
	66	64	58	52	55	48

左の表は、過去6年間の主な高校別入学者数である。本学の特徴として、ひとつの高校から複数名が入学する傾向がある。令和3年度入試では、滑川総合、鶴ヶ島清風、川越西などが数字を伸ばしたが、松山女子、寄居城北、鴻巣女子、山村学園高校などで減数となり、全体として48名で、7名の減となった。

資料請求数・オープンキャンパス参加者数・入学者数										
	H28	H28 割合	H29	H29 割合	H30	H30 割合	R1	R1 割合	R2	R2 割合
資料請求数	1006	100%	943	100%	657	100%	968	100%	918	100%
参加者人数（延べ数）	364	36%	277	29%	318	48%	278	29%	237	26%
参加者人数（1、2、3年生の実質数）	239	24%	179	19%	193	29%	182	19%	144	16%
参加者人数（3年生のみの実質数）	141	14%	125	13%	110	17%	98	10%	105	11%
次年度志願者数	74	7.4%	64	6.7%	65	10%	57	6%	57	6%
次年度志願者数/参加者人数（3年生のみの実質数）		52%		51%		59%		58%		54%

上の表は、平成28年度からのオープンキャンパス（年に10回程度）の参加状況と次年度志願者数をまとめたものである。資料請求数が前年度よりも50人減っている。オープンキャンパスに参加した3年生のうちの54%が、実際に志願しており、依然として高い志願

率を維持している。前年度よりも入学者数が減ったのは、新型コロナウイルス感染症でオープンキャンパスへの参加者が減ったこと、高校生の進路希望として保育を希望する者が減っていることなどが考えられる。

## 5. 在籍者・退学者

令和2年度の始業時の在籍数は、1年生74名、2年生が68名だった。その後1年生で退学者が1名あり、年度終了時の在籍者数は1年生が73名、2年生が68名であった。

## 6. 求人・就職

### 求人票の受付数

R2

	県内	県外	合計
保育所	198	256	454
幼稚園	177	121	298
施設	64	25	89

R1

	県内	県外	合計
保育所	267	353	620
幼稚園	208	116	324
施設	31	42	73

H30

	県内	県外	合計
保育所	226	283	509
幼稚園	183	92	275
施設	60	43	103

左の表は、平成30年度からの求人票数の推移をまとめたものである。令和2年度の求人票数を見ると施設が前年度を上回っているが、保育所、幼稚園については、前年度を下回っている。保育所、幼稚園求人票数が減ったのは、求人票が複数届いても一つとカウントしていること、新型コロナウイルスにより、園側からのアプローチが電話で始まるケースが増え、電話で様子を聞いた段階で、求人票を出さないと判断する園が多かったと思われる。問い合わせについては、依然多いので、県内県外の保育者に対するニーズ自体は依然高いと考えられる。

なお、求人票数とは、求人票の数であり、求人数ではない。実際の求人数は求人票数の数倍になるとと思われる。

また、キャリアタス UC というキャリア支援サイトによる、本学宛求人票数は、令和3年3月卒業生向けが、5560（前年は5290）届いている。企業が多いが、幼稚園、保育園、施設、公務員等、全国多岐に亘っている。

在籍者数	卒業者数	保育士資格取得	幼稚園教諭免許取得	就職した人数
68	68	66	55	66
-	100%	97%	80%	97%

※%はその学年で在籍した学生の人数に対する比率。

上の表は、令和3年3月卒業の学生の資格取得状況、就職状況である。68名が全員卒業したが、2名が保育士資格を取らずに卒業した。うち1名は科目履修生で今年度も在籍し、保育士資格取得を目指している。もう一人は無資格ではあるが福祉施設へ就職を果たしている。

幼稚園教諭免許に関しては、55名80%が取得している。

就職した人数は66名であり、就職しなかった2名については、結婚等の事情によるものである。

7. 本学への評価  
 (1) 就職先からの評価

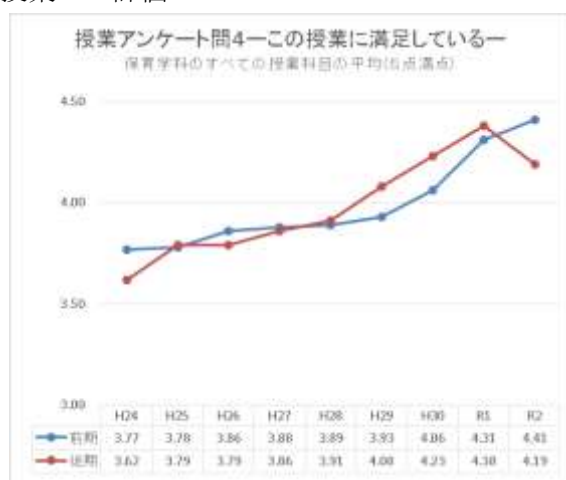
平成31(R1)年度卒業生の勤務状況調査(所属長回答)				
山村学園短期大学 キャリア支援センター (2020(令和2)年9月1日)				
回答率94.6%(依頼56名分・回答53名) コメントは令和2年3月卒業生に関する記述 ※前年度83.3%				
<b>1 出勤状況</b>	(%)			
年度	28	29	30	31
(1)たいへんよい	76.5	77.2	80.0	81.1
(2)ふつう	19.6	21.1	17.8	15.1
(3)努力が必要	2.0	1.8	2.2	3.8
今後有給休暇をうまく使うと良い。体調を整えて休まないでほしい(2)。遅刻が多い。				
<b>2 勤務態度</b>	(%)			
年度	28	29	30	31
(1)たいへんよい	68.6	64.9	75.6	67.9
(2)ふつう	29.4	35.1	24.4	26.4
(3)努力が必要	0.0	0.0	0.0	5.7
意欲的だが自己判断が多いので報連相や助言を聞き入れることが課題。元気・明るさ・張りをうまく表現してほしい。時折大きなため息をつき周囲が驚く。振る舞いに配慮がほしい。積極的に仕事が出来るとよい(2)。携帯を見てる事が多い。言葉遣い。				
<b>3 幼児(施設:利用者)への関わり方</b>				
年度	28	29	30	31
(1)たいへんよい	58.8	45.6	57.8	49.1
(2)ふつう	39.2	47.4	37.8	47.1
(3)努力が必要	0.0	7.0	4.4	3.8
積極的に関わりに行けない時がある。子どもの勢いにのまれてしまうこともあり工夫が必要。全体を見ることが難しく視界が狭い。言葉が強い時がある。子どもの遊び方をもっと学んで欲しい。子どもへの配慮・丁寧さに欠ける。先輩を見て習うことが必要(2)。				
<b>4 環境構成力(施設等では環境整備、安全・安心への配慮)</b>				
年度	28	29	30	31
(1)たいへんよい	43.1	24.6	28.9	32.1
(2)ふつう	52.9	59.6	68.9	58.5
(3)努力が必要	0.0	15.8	2.2	9.4
慣れたら整頓清掃にも気を向けられたら良い。子ども達の危険を考えた行動(安全への配慮)が出来ない(2)。積極的に動いたり考えてみたりして欲しい。自ら考え行動することはまだ少ない。				
<b>5 保護者への関わり方(利用者の家族への関わり方)</b>				
年度	28	29	30	31
(1)たいへんよい	35.3	28.1	33.3	33.3
(2)ふつう	49.0	59.6	64.4	58.3
(3)努力が必要	7.8	12.3	2.2	8.3
★コロナ対応で保護者や家族との接触していないとする回答が5。(回答記入数47) 表情豊かだと良い(経験で学んでいく)。今後は汚すの保護者以外にも対象が広がっていくと良い。対人マナーを含めた人との距離の置き方。子どもの名前覚えて欲しい。不信感を与える会話は慎む。その日の子どもの様子を伝えられるようになって欲しい。今後徐々に対応してもらおう。				
<b>6 他の職員との協調性</b>				
年度	28	29	30	31
(1)たいへんよい	62.7	56.1	66.7	54.7
(2)ふつう	33.3	40.4	28.9	41.5
(3)努力が必要	2.0	3.5	4.4	3.8
まだ余裕が無く指摘や指導に対し良い態度では無い。些細な事でも声をかけコミュニケーションを取っていきたい。他の職員の姿を見て学ぶ、努力するという姿勢。助言等を素直に受け入れられない、休憩時のコミュニケーションは取れているが業務上の質問等は積極性に欠ける。やるべき事をこなすだけで精一杯と思うが、業務の話を通じて積極的にコミュニケーションを取って欲しい。				



上の表およびグラフは、就職一年目の卒業生に対する就職先からの評価である。総合的に見て、ほとんどの項目において、前年度を上回っており、ここ数年で一番よい数字となっている。

7 その他(本学への要望等)	
①	勤務態度も非常に良い。今後も教師の育成にご尽力をお願いしたい。
②	実践で活用出来る保育・一般教養・協調性を身につけて欲しい。教職員は組織の一員であり、園の方針や教育目標を知り、目標に合った保育を行わなくてはならないことを教えて欲しい。
③	手遊び等ちょっとした保育技術を出せるのは即戦力になる。限られた時間での工夫を伝えていただきたい。実習中の記録に時間がかかりすぎないように内容を見直してほしい。
④	出来なくても努力する前向きな学生が増えると良い。
⑤	授業で保育の環境づくりを特化して学ぶと良いと思う。異なる世代と関わって仕事を進める上で積極的に雑務を引き受ける等具体的な事も学生のうちに学んでほしい。
⑥	職員への言葉かけが適切に出来るように内定学生の姿を事前に知りたい。
⑦	保育士不足の現在、これからの保育現場を支えていく人材育成をお願いしたい。
⑧	他人とのコミュニケーションがスムーズに出来る大人になって欲しい
⑨	PCを使うので基本からword, excel, メールがそれぞれ使えるとよい。
⑩	障害児に対する教育・知識の向上を望む。実践に繋がる学び。
【考察と課題】	
<p>○学生指導の課題： コミュニケーション能力(仕事をする上でも)、一般教養、協調性、園の方針の理解、保育技術(手遊び等)、出来なくても前向きな態度、PC関連の基礎能力、障害児教育や障害についての知識。          ○実習記録の内容見直し(時間が掛かる)          ○内定学生について知りたい。</p> <p>★評価は総じて良い。勤務態度については、休みや遅刻のある者がおり学生時から注意してほしいという要望だった。実践に繋がる保育技術等を在学時に沢山経験(製作)して欲しいという事は共通している。コロナの影響で、子どもや保護者との関わりが少ない点の影響がある様子。改善すべき点については、現在頑張っているが今後さらに経験を積んでいく上での課題とする回答が殆どだった。</p>	

## (2) 授業への評価



左のグラフは、保育学科のすべての授業に対して、学生が5点満点で評価する満足度の調査結果の平均である。ここ数年間数値は上がり続け、令和2年度前期には過去最高値を更新したが、後期にはやや数字を下げた。コロナ禍でクリスマス会が縮小されるなど、全体として想定した授業が実現できなかったことが要因として考えられる。

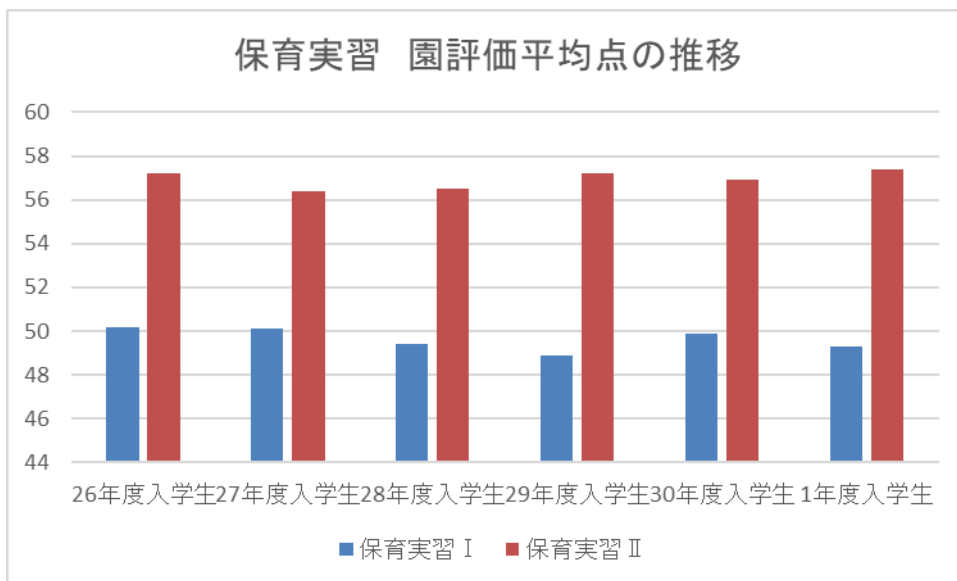
### (3) 学生満足度調査



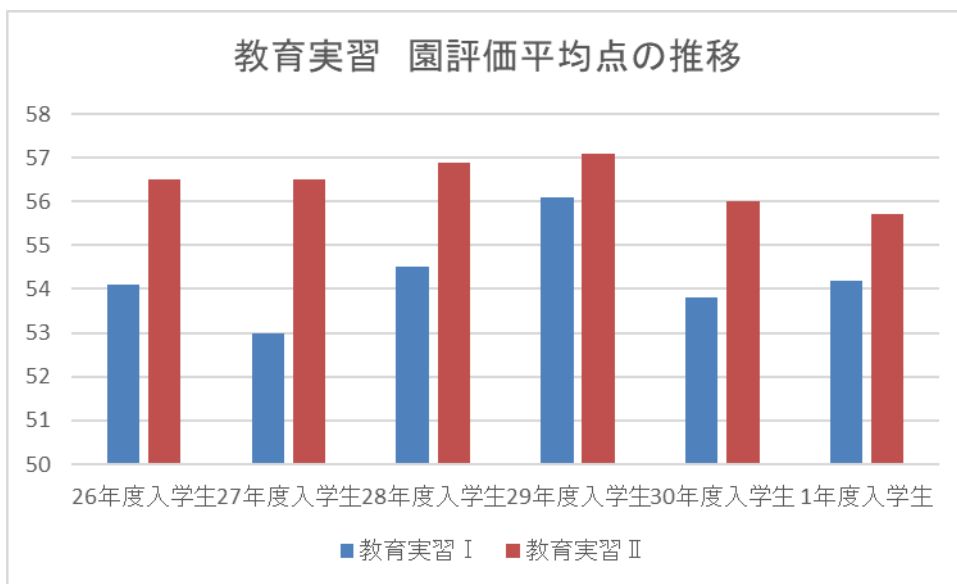
上のグラフは、短大全体について卒業生（平成 29 年 3 月卒業～令和 3 年 3 月卒業）に対して行った満足度調査の結果である。全般的に高い満足度であると言える。特に「友人との出会い」、「自分の成長」、「就職」に関して 90%前後と非常に高く、昨年度をも上回った項目が目立つ。

「施設設備」、「授業」に関する満足度は相対的に低いものの緩やかに上昇傾向にある。

(4) 実習での評価



上の表は、保育実習（1年生時に保育実習Ⅰ、2年生時に保育実習Ⅱを実施）に対する、園から学生への評価点の平均値を学年ごとに示したものである。評価項目の主な内容は、実習態度、保育者としての資質、指導力などである。平成26年度生以降については、安定した評価となっている。



上の表は、教育実習Ⅰ・Ⅱに対する園からの学生への評価点の平均値を学年ごとにまとめたものである。平成29年入学生をピークに徐々に点数が下がっている。学生自身が保育園出身である者が多い点、新型コロナウイルスの影響で例年と違う時期に行った点などが影響している可能性がある。また、そのことが幼稚園への就職希望を減らしている可能性もある。引き続き精査していくこととする。

## 8. 財務状況

収支推移表(令和2～6年度)

2021. 3. 16

1年 2年	74(訓練生9) 69(訓練生9)	65(訓練生7) 63(訓練生9)	75(訓練生9) 65(訓練生7)	75(訓練生9) 75(訓練生9)	75(訓練生9) 75(訓練生9)
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	146,310,000	144,320,000	154,320,000	164,320,000	164,320,000
手数料収入	1,940,000	2,050,000	2,100,000	2,400,000	2,400,000
寄附金収入	2,330,000	650,000	650,000	544,000	544,000
補助金収入	33,450,000	30,840,000	30,000,000	27,000,000	27,000,000
資金運用収入	0	0	0	0	0
資産売却収入	0	33,000,000	0	0	0
付随収入	27,980,000	25,210,000	26,000,000	26,000,000	26,000,000
雑収入(施設利用料)	9,650,000	20,820,000	5,500,000	5,500,000	5,500,000
借入金等収入	0	0	0	0	0
収入の部 合計	221,660,000	256,890,000	218,570,000	225,764,000	225,764,000

### 支出の部

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	157,880,000	169,670,000	153,380,000	153,380,000	153,380,000
教育研究経費支出	31,130,000	26,360,000	25,000,000	25,000,000	25,000,000
管理経費支出	29,860,000	26,500,000	26,000,000	26,000,000	26,000,000
(修繕)					
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	0	0	0	0	0
設備関係支出	2,650,000	950,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
資産運用支出	0	0	0	0	0
繰出金支出	11,120,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000
引当金	0	0	0	0	0
支出の部 合計	232,640,000	234,480,000	216,380,000	216,380,000	216,380,000

収支差額	△ 10,980,000	22,410,000	2,190,000	9,384,000	9,384,000
------	--------------	------------	-----------	-----------	-----------

令和元年度繰越金	令和2年度繰越金	令和3年度繰越金	令和4年度繰越金	令和5年度繰越金	令和5年度繰越金
106,334,637	95,354,637	117,764,637	119,954,637	129,338,637	138,722,637

### (1) 財務状況

- ・ 入学者数の減少により財務状況は極めて厳しい状況にある。人件費については、事務局員の人員の削減により費用を削減でき、私立大学改革総合支援事業 type3 の補助金を獲得することができたが、経常費補助金の減少、私立大学改革総合支援事業 type1 で補助金が獲得できなかったことで、収支は予想よりも悪くなった。加えて、経年の劣化による施設設備の修繕にかかる費用が増加しており、新規事業はなかなか行えな

い状況にある。

(2) 条件設定

- ・ 令和4年以降、入学者は75名を想定。
- ・ 補助金は、2,700万円を想定。うち500万円は、私立大学等改革総合支援事業を想定している。
- ・ 人件費は、教員数11名、現状維持で想定。11名は、文科省が定める最少人数。
- ・ 令和3年度の人件費支出については、退職金が含まれているため、例年よりも1500万円程度、多い額となっている。
- ・ 職業訓練生を受け入れる。10名の枠で募集をして9名の入学者を想定。
- ・ 高校卒+職業訓練生の合計が75~80名であれば、収支が均衡する。ただし、減価償却特定引当金や将来に向けての資金の積み立てはできない。

(3) 人件費

人件費は、専任教員11名を想定している。これは文科省が定めるこの規模の保育学科の最少人数である。事務局員はR2年度から1名マイナスとし、5名とした。また、一時金は3.0か月とした。

(4) 施設・設備更新

施設設備の更新については、一時停止し、財務状況の推移を見る方針だが、タイルの補修など必要な修繕に関しては行う。

(5) 次年度繰越金

減少傾向が止まらないが、補助金が2700万円獲得でき、かつ高校卒+職業訓練生の合計が75~80名であれば、収支が均衡する。ただし、減価償却引当特定預金や将来に向けた資金の積み立てはできない。

(6) 積立金

積立金については、令和3年度については行わない。

(7) その他の経費節減

なお、経費節減については、平成29年度に合計約900万円の経費節減計画を実行し、平成30年度はさらに210万円の経費節減を実行した。令和2年度については、事務局員数を昨年度比一名減員とし、業務の効率化と経費節減を図った。令和3年度は、前年度と同程度の支出抑制を計画している。

## 9. 行政の施策

(1) 埼玉県子育て応援行動計画

埼玉県全体では、新たな子育て応援行動計画（令和2年度から令和6年度）を策定し、保育の受け入れ枠の確保、認定こども園の整備、小規模保育事業等の連携施設の確保、延長保育の実施、保育人材の確保、保育環境の向上をうたい、保育施策の充実を計画している。

(2) 高等教育無償化

令和2年度から、高等教育の無償化が導入された。住民税非課税世帯を中心に年収 270 万円以下から 380 万円以下までの世帯が対象となる。本学は、令和元年度から高等教育無償化の対象となる短大として認可されている。

(3) 幼児教育無償化

令和元年 10 月から幼児教育・保育の無償化がスタートした。子どもを預ける世帯が増え、現場での保育士、幼稚園教諭への採用ニーズは高くなると予想される。

10. 令和2年度事業計画達成度一覧

令和2年度 (2020年度)		
学生募集 ・目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の数 100 名を基準。</li> <li>・資料請求数 1333 (80 名を 6%とした場合)。来校数 135 名。志願者数 80 名が目標。</li> </ul>	×
学生募集方法 ・継続実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンサルタントの活用。</li> <li>・職業訓練生の募集</li> <li>・ホームページデザインの更新、ランディングページ作成。</li> <li>・SNS 広報の活用。</li> <li>・公民館等に履修プログラムの案内を配布する。</li> <li>・近隣の高等学校や地域の市町村との教育包括協定に基づき、地域貢献するとともに高校生、中学生、小学生が本学に訪問する機会を増やす。</li> <li>・その他高校側のニーズを開拓 (定時制高校、通信制高校などへのアプローチを強化)</li> <li>・保育者に対して、待遇面についてのデータを作成したり、各自自治体等が取り組んでいる補助金制度などをまとめたりし、本学から積極的に情報発信する。</li> </ul>	○ ○ △ ○ × × × ×
学生募集確保 ・新たな試み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校への出前授業の強化。特に家庭科の授業の中で出前授業を展開し、本学の認知度を高める。家庭科では保育に関する授業内容で短大、大学での学びについて紹介したいというニーズがあり、それに応えることで地域への貢献も図れる。</li> <li>・中学校、高校の PTA へのアプローチ。在校生に行ったアンケートによると、親からの勧めで入学している者が一定割合いることから、地元での認知度を高めるため、中学校約 40 校、高校約 20 校の目標値を掲げ、PTA 役員へのアプローチを展開する。</li> <li>・学生による画像、動画の作成、PR。</li> </ul>	○ ×
経常費補助金・私立大学 等改革総合支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経常費補助金の確実な獲得。</li> <li>・「地域社会への貢献」の選定を受けることにより、補助金の獲得が期待できる。</li> </ul>	△
新カリキュラム策定・コ ンCEPTの点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムの運用。</li> <li>・自然環境を保育に活かせるカリキュラムの検討。</li> <li>・フィンランドの保育の研究。</li> </ul>	○ △ ×
卒業までに身につける べき学習成果について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された学習成果をもとに、そのチェックの仕方を確立</li> <li>・カリキュラムツリー、ポートフォリオの運用定着。</li> </ul>	△ ○
授業の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期、後期ともに問4.0以上を目標とする。</li> </ul>	◎
少人数教育 の深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度調査において、友人との出会い、先生との出会いが 90%以上になることを目標とする。</li> </ul>	◎
実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅰは 50 点以上、保育実習Ⅱは 55 点を基準。</li> <li>・教育実習Ⅰは 55.0、教育実習Ⅱは 58.0 を基準。</li> </ul>	△ ×
自然を活かした 保育の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Natural 保育検定基礎編合格者数について、平成 30 年入学生の合格 60 名。平成 31 年入学者 45 名を目標。</li> <li>・Natural 保育検定応用編合格者数について、平成 31 年入学生の合格者 30 名。平成 31 年入学者 15 名を目標。</li> </ul>	○ ○
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退学者防止。退学者 0 を目標。</li> </ul>	△
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望者数を母数とした就職率 100%以上を目標</li> <li>・公務員試験合格人数 4 名以上</li> <li>・就職先からのアンケートで「たいへんよい」の割合が、出勤状況 80%、勤務態度 70%、幼児への関わり方 50%、環境構成力 40%、保護者への関わり方 35%、他の職員との協調性 60%を目標</li> </ul>	◎ △ △
施設・設備	改修は一時停止	-
学生満足度調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学への満足度 80%、就職への満足度 85%、授業への満足度 75%、実習への満足度 75%、体験学習への満足度 80%、施設設備への満足度 70%、先生との出会いへの満足度 85%、友人との出会い 90%、自分の成長 80%を目標</li> </ul>	◎
人件費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員数については最少人数で臨む。</li> <li>・事務局員数は 1 名減員。</li> </ul>	○ ○